

令和4年度大府市中小企業向け 脱炭素化プログラム事業のあらまし

プログラムの目的

中小企業の温室効果ガス（GHG）排出量は1.2億t～2.5億tと推計され、日本全体のGHG排出量のうち1割～2割弱を占めております。また、市内のCO₂排出量の7割を産業部門が占める本市では、産業部門のCO₂排出量削減が市内のCO₂排出量の削減にも大きな影響を与えます。

経済産業省では、中小企業のカーボンニュートラルの方向性として、GHG排出量の「見える化」の促進や、情報提供が必要であるとしています。

そのような背景を踏まえ、本市では令和4年10月から令和5年3月にかけて、市内の中小企業の脱炭素化へのスタートアップ支援を目的とし、ICT（情報通信技術）を活用した研修プログラムを実施しました。

プログラムの概要

①脱炭素化に関する動画研修

プログラムに参加した市内中小企業に、ICTを活用した省エネ・再エネ等の脱炭素化に関する研修動画を配信しました。



動画の内容

大府市
ゼロカーボンシティ
実現に向けた
取組紹介

講師 植木 孝
大府市環境課 係長

SDGs時代の
省エネルギー経営

講師 原 理 史
中部大学 中部高等学術研究所
国際ESD・SDGsセンター 研究員
環境省 中部環境パートナー
シップオフィス 中部地方ESD
活動支援センター 責任者

省エネ対策事例紹介

講師 田 中 茂 男
一般社団法人 全国エネルギー
管理士連盟 理事

中小企業における
省エネ対策ノウハウ

講師 大河内 敏博
省エネ診断設計株式会社
代表取締役

②CO₂見える化のトライアル

燃料、熱、車両、電気、再生可能エネルギー等の使用量の実績を入力することで、CO₂排出量等を一覧表やグラフで確認することができるアプリを参加企業が試用できる支援を行いました。



プログラム参加企業の声

企業 01

感想

動画で紹介されたエアー制御に関する取り組みは以前から自社でも実施しており、効果をあげている。自社の方向性が間違っていないことを再認識した。

今後の方向性

動画研修で学んだように、専門人材の育成・組織作りが重要であり、今後は全社に情報提供を出来るような仕組みづくりを進めていきたい。



企業 02

感想

動画研修について、自社の省エネの取り組みに反映できる部分があり、大変有意義に感じた。月単位の使用量実績の見える化はすでに行っているため、リアルタイムの使用量の見える化の手段を知りたいと感じた。

今後の方向性

動画研修の内容は、自社の取り組みに反映できる部分を反映していきたい。CO₂見える化アプリについては、各エネルギー使用量（電気・ガス）の一元管理する際の参考にしたい。



企業 03

感想

実際の省エネ取組事例が参考になった。今後、同業種での製造設備の更新や高効率照明の導入事例等を知りたいと感じた。

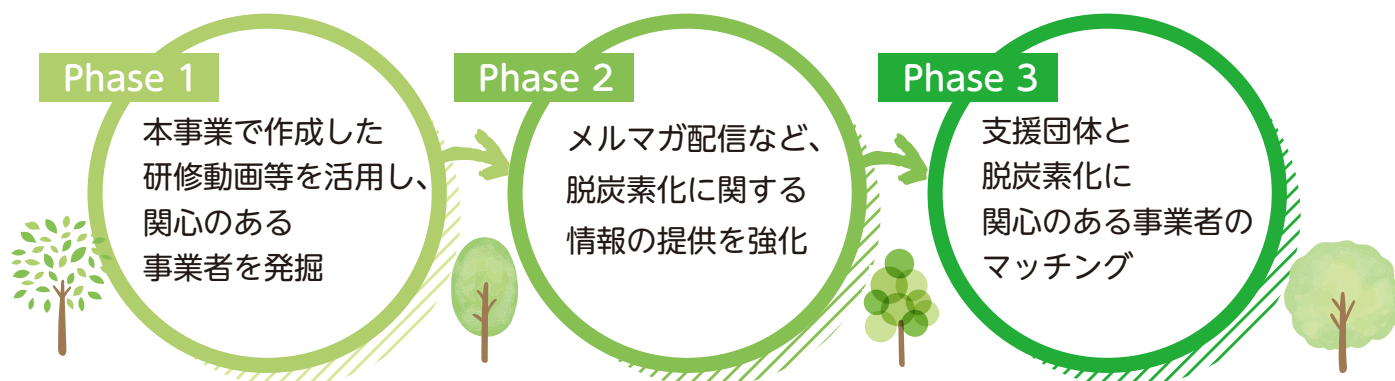
今後の方向性

自社に置き換えて、どのような改善をすることができるか検討したい。加えて、CO₂排出量や電力量の見える化を行い、省エネの取組を進めていきたい。



本プログラムの今後の方向性

アンケート結果より、中小企業の事業所で脱炭素化を進めていくためには、まずは ①他事業所の省エネ・再エネ事例の情報提供、②補助金活用等の伴走支援が重要になりますので、今後は以下の取り組みを進めていきます。



企業向け環境メールマガジン『おおぶエコ情報誌』

本市では、環境保全活動の推進を目的に、事業所の環境保全に関する情報（省エネ補助金・環境セミナーの開催情報など）を随時配信しております。



おおぶエコ情報誌
登録 QR